助産師として女性の一生涯をサポートする立場でありたい

学術研究院 保健学系 助教
（医学部保健学科）

鮫島 敦子
Atsuko　Samejima

Shinshu University Role Model Profiles

現在の仕事

看護学専攻に所属しており、母性看護学と助産学を担当しています。看護師や保健師、助産師を目指す学生を主に実習や演習で支援しています。私自身も信州大学の卒業生で、助産師としての病院勤務経験を経て着任しました。これまで、オキシトシンというホルモンと母子の愛着形成との関わりや、分娩後の女性の月経がいつ再開するかという研究、他にも同じ領域の先生方と一緒に、周産期の女性に関わったり、女性の健康を考える研究を行ってきました。研究中は苦しいことも多いですが、同じくらいワクワクする瞬間があり、私は多分研究が好きなのだと思います。大学での教育・研究に日々やりがいを感じています。

今の自分があるのは

信州大学に着任してから2人の子どもを出産しました。博士後期課程の大学院生でもあったため、仕事を続けながら妊娠・出産・育児に向き合えるのか、とても不安でしたが、同じ領域の先生方の支援や、DE&I推進センターの研究補助者制度に大きく助けられました。夫婦ともに県外出身で頼れる親族が近くにいないため、松本市の育児支援サービスもよく活用しています。すべてを自分だけで抱え込まず、周囲に助けを求めてもいいんだと思うようにしています。今の環境に感謝しつつ、いずれは私も誰かの力になりたいと考えています。

今後の展望

無事、博士号を取得することが出来たので、これからは新たな研究としっかり向き合っていきたいと思います。助産師として女性の一生涯をサポートする立場でありたいと思うので、妊娠・出産・育児期はもちろんですが、思春期や更年期にある女性の支援につながるような研究に挑戦したいと考えています。家族の理解があって今の仕事を続けられています。いつか子どもたちから「ママもパパも楽しそうにお仕事しているね」と言ってもらうのが目標です。

家族みんなで沐浴
（夫も育休中）

Message
後進の女性研究者や大学生、高校生のみなさんへ

大学時代、アメリカンフットボール部でマネージャーをしていました。当時の友人には医療とは全く関係のない仕事に就いている人もいて、今でもさまざまな刺激をもらっています。学生時代は時間を有意義に使い、学ぶことも遊ぶことも旅をすることも、すべての経験が自分の視野を広げてくれると思います。将来の職業に直接つながらなくても、さまざまな経験ができる環境に身を置き、多様な価値観に触れられるとよいですね。

卒業から16年　アメフト部同窓会